

## 大学院スタンダード

# 知の拠点 TSUKUBA で 新たな知と個性輝く人材を共創する

建学の理念を踏まえて、大学院における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし、学位の質の保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言として広く社会に公表します。

### 建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

## 筑波大学教育倫理綱領

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念とし、我が国における大学改革を先導する役割を担っている。人類社会の調和のとれた発展を担う知の拠点として、大学にさらに大きな役割が求められるなか、筑波大学は、知の全ての分野において幅広い教育研究活動を展開することが可能な総合大学として、個性と自立を基軸とし、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を教育の基本的な目標に掲げ、その実現のための具体的な指針として筑波スタンダード※1を定めている。これらの目標を達成するため、筑波大学のすべての教員は、教育に係わる以下の行動規範※2に従う。

1. 教員は、すべての学生の個性と能力を開花させ、豊かな人間性と創造的な知力の獲得を促し、学生とともに知の拠点を共創することに努める。
2. 教員は、学生の人格を尊重し、成長発達を促し、学生に最善の利益がもたらされるよう努める。
3. 教員は、教養教育から専門教育にわたる教育内容・教育方法の改善を継続的に行い、かつ学生の自主的な学修を支援する。
4. 教員は、筑波スタンダードに基づく明確な学習目標と成績評価の基準を定めるとともに、学習目標に沿った公正な成績評価を行う。
5. 教員は、学生の意見や批判に耳を傾け、誠実できめ細かな学生指導に努めるとともに、個人情報保護を遵守する。

※1:筑波スタンダードは、学士課程に関する「学群スタンダード」と大学院課程に関する「大学院スタンダード」からなる。

※2:5つの行動規範のうち、1は全体の指針、2は学生の人格と利益の尊重、3及び4は教育改善の義務、5は学生の個人情報の保護を定めている。

## 筑波大学が授与する学位の意味について

筑波大学は、学生の自主的な学修を支え、多様な個性や文化を尊重する倫理的態度を涵養し、すべての学生の個性と能力を開花させる。豊かな教養と情報リテラシー並びに創造的かつ批判的な思考を基盤として、対話により個性や文化の違いを超えた人と人との信頼を醸成し、社会の持続的な発展を目指して高潔かつ真摯に行動し、人間と自然を慈しみ、芸術やスポーツに親しむ豊かな人間性を育む。こうした基盤に加え、

- 学士の学位**は、世界の動向と課題の本質を理解するためにデータの調査・分析を行い、「専門の**知識・技能**」を常に更新しながら異分野の専門知識に対する**広い理解力**を持ち、「本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に裏打ちされた**創造性**」を身に付け、「国際社会において課題の解決に向けて主体的に行動する**実行力**」が備わったことを認定して授与する。
- 修士の学位**は、世界の動向と課題を学術的に理解して研究を行い、「真理の発見や価値の創造に貢献できる**研究力**」または「最新の学術研究の成果を含む高度な専門知識を学際的な視座から理解し、国際社会で活かす**知の活用力**」が備わったことを認定して授与する。
- 博士の学位**は、未解決の学術的課題や社会課題に対して、「自ら問いを設定し、課題の克服に向けた学際的研究行程を描き、新たな真理の発見や価値の創造をもたらす**自立した研究力**」と「対立する概念や価値観を結びつけ、より高い次元に止揚させ統合させる**創発力**」からなる**知の創成力**に、研究成果を基に国際社会の発展に寄与する**知の活用力**が加わった**創造的な知性**が備わったことを認定して授与する。

**情報リテラシー**:情報を適切に収集、評価、利用、発信する能力

**創発力**:対立する既存の概念にとらわれず、新しい発想で異なる概念を止揚させ統合した新たな概念や価値を生み出す能力

## 筑波スタンダードとは何か

筑波スタンダードは本学による教育宣言です。学士課程の学群スタンダード(平成20年3月公表)と大学院課程の大学院スタンダード(平成23年6月公表)の2種類があり、各課程で筑波大学が何を目指し、その目標をどうやって達成するかを明らかにし、本学が保証する教育の質を広く社会に公表するものです。教育の質を維持するだけでなく、それを絶えず改善し、持続的に向上させるツールとして、筑波スタンダードは学内でも重要な役割を果たしています。

## 「学位プログラム」の意義

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。学部等の教育組織に教員が固定される従来型のシステムでは、個々の教員が提供する授業の総和としてプログラムが組まれるため、社会の要請や学生のニーズよりも教員の事情が優先されがちでした。それに対し、学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけた上で、学位に相応しいプログラムにするために学内外の組織の枠を超えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムです。学位プログラムを中心とした教育システムとすることで、学生にとっては、自らが何を学び、どのような力を身につけるのが明確になり、社会にとっても大学教育の方向性と成果がより明確になります。

## 筑波スタンダードと学位プログラム

本学は開学以来、従来の学部制に代えて「学群・学類」を設置し、柔軟な教育体制を構築してきました。また、学生の教育のための組織と教員の研究のための組織を分離する独自の体制を採用し、教育の必要に応じて全学から教員を配置できるシステムを実現しています。これにより、一つの組織内に閉じずに教育を展開できるという、本学の理念を体現した仕組みとなっています。2011年度には、新たな教員組織(系)を設置する組織改革を行い、さらに2020年度には大学院を改組再編するとともに全学的な教学マネジメントの体制と仕組みを整備し、学位プログラムを中心とした教育システムへと全面移行しました。筑波スタンダードでは、すべての教育組織において、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示しています。これらは、本学の建学の理念に基づく一貫した取組です。今後も、国際的互換性と協同性を備えた教育システムとして本学の学位プログラム制の確立及び教育の質のさらなる向上を目指し、教職員一同、不断の教育改革を推進しています。

# 筑波大学大学院の教育目標

## 博士課程の教育目標

■ 学問を継承し躍進させる研究者及び  
異分野を融合し先端的な新領域を  
切り拓く研究者をともに育む

---

■ 深い専門性、卓抜した独創性と柔軟性を兼ね備え  
社会に貢献する高度専門職業人を育てる

---

■ 教育・研究・組織運営の各面で鍛え抜かれた  
力量を有する大学教員を養成する

---

## 修士課程の教育目標

■ グローバルな視野と専門的実務能力を併せ持ち、  
社会に貢献する高度専門職業人を育成する

---

## 専門職学位課程の教育目標

■ 高度の専門性が求められる職業を担うための  
深い学識及び卓越した能力を有する  
高度専門職業人を育成する

- 鋭敏な国際感覚を基盤としグローバルにリーダーシップを発揮し得る人材
- 豊かな教養と倫理観を併せ持ち人類社会の未来に資する知を創成できる人材
- 論理的な思考力と先進的な創造力を兼ね備え  
成熟した知情意に基づいて専門的職能を切り拓く人材



図1 知の拠点 TSUKUBA で新たな知と個性輝く人材を共創する

## 明確な教育目標と質の高い学位プログラム

### 3 学術院 6 研究群による学位プログラム制

本学大学院は、2020年度に8研究科85専攻から3学術院6研究群へと改組再編し、学位プログラム制へ全面移行しました。新組織では従来の専攻の壁が取り払われ、幅広い分野の教員が協働して学位プログラムを担当します。つまり、6つの研究群がいわゆる専攻相当となり、その中では全教員が専任教員となります。これにより、研究群内では、ひとりの教員が複数の学位プログラムを担当することができ、分野を超えた担当・協働指導体制等が可能になりました(図2)。また、学生が所属する学術院・研究群を教員の所属組織である系とは明確に分離した組織としました。この学術院・研究群の下に開設される学位プログラムは、学位のレベル(修士・博士)とその系統(研究・専門・専門職)及び分野において、社会的要請を踏まえた人材養成目的を設定し、どのような知識と能力を修得すべきかを明示し、それを修得するための教育課程を体系的に設計しています。

このほかに、全学的な協力の下で運営する学位プログラムの実施・運営を行うために「グローバル教育院」を置いています。

### 3つのポリシーの明確化とコンピテンスの設定

本学が授与するすべての学位について、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの3つのポリシーを明確化するとともに、学位授与時に学生が備えているべき知識・能力(以下「コンピテンス」という。)をディプロマ・ポリシーにおいて明示しました。これに基づいて各教育組織・学位プログラムは教育課程を編成・実施します。学位に相応しいコンピテンスを明示し、その達成度を評価することで学位の質保証が担保され、また本学の大学院教育による学修成果を社会に可視化することができます。

コンピテンスは「汎用コンピテンス」と「専門コンピテンス」に区分し、汎用コンピテンスは社会での活躍を支える汎用的知識・能力として修士課程・博士課程ごとに全学共通に定めています(表1)。専門コンピテンスは、専攻分野における高度な知識・能力として学術院・研究群・学位プログラムの各階層の人材養成目的に対応し、「研究力」「専門知識」「倫理観」の3項目を基軸として体系的に構成されています。全学・学術院・研究群の各階層における共通の基盤の上に各学位プログラムの特色や独自性に基づくコンピテンスを設定することで、学生は、深い専門性ととも、関連する分野の基礎的素養や広い視野、俯瞰力を涵養できる仕組みとしています。

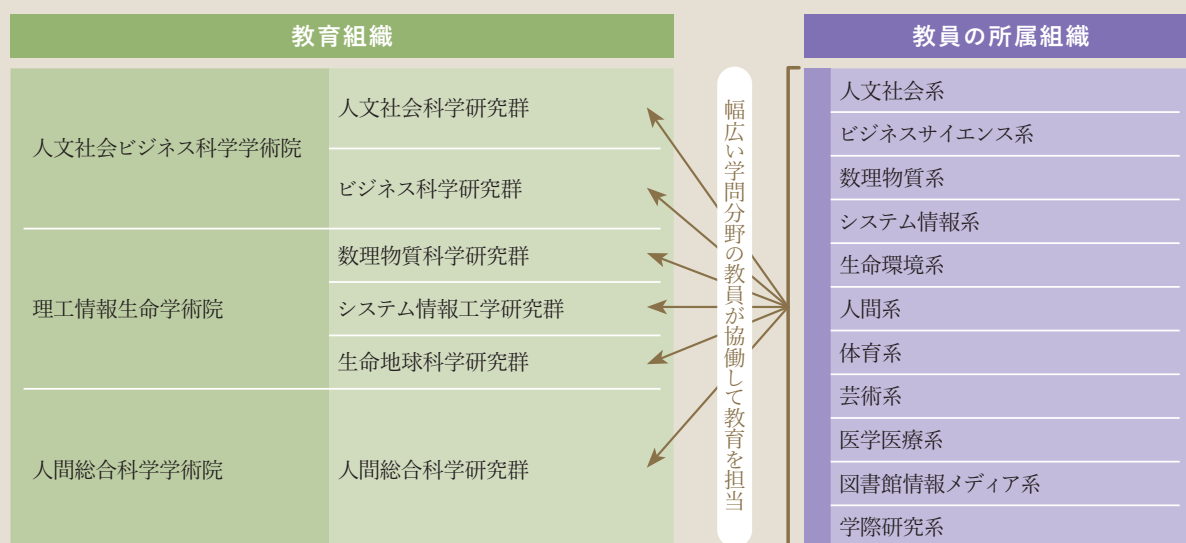


図2 幅広い分野の教員による担当・協働指導体制

## Ⅰ 体系化された教育課程編成

本学は、特定の分野における専門教育や研究を通じて身につける高度な知識・能力である「専門智」と、特定の分野に限定されず、様々な状況や分野で柔軟に応用できる普遍的で横断的な知識・能力である「汎用智」の両方をバランスよく培い、それらを統合した「総合智」を備えた人材を育てるための教育体系を「総合智教育」と定めています。この体系による教育により、予測困難な今後の社会における複雑な課題に対し、柔軟な解決案を示してそれを具現的に実践できる、深い専門性と広い視野を併せ持つ人材を育成します。各教育組織は、この総合智教育の理念に基づき、ディプロマ・ポリシーにおいて明示した汎用コンピテンスと専門コンピテンスを学生がバランスよく修得できるように教育課程を体系的に編成・実施します。このため、各学位プログラムにおける専攻分野に係る科目だけでなく、全学で編成する大学院共通科目や学術院単位で編成する学術院共通専門基盤科目、研究群の共通科目を開設しています。大学院共通科目は主に汎用コンピテンスに対応する科目であり、倫理観、情報伝達力・コミュニケーション力、国際性、キャリアマネジメント力、幅広い知的基盤、豊かな身心基盤などをバランスよく涵養するための6科目群を設定しています。学術院共通専門基盤科目は学術院の専

汎用コンピテンス	
修士課程	1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力
	2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力
	3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力
	4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力
	5. 国際性: 国際社会に貢献する意識
博士課程	1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力
	2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力
	3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力
	4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力
	5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲

表1 汎用コンピテンス

門コンピテンスに対応した科目であり、自らの専門分野に隣接する様々な専門分野の基盤的知識を修得することができます。本学の学生は大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目及び各々の専攻分野に即した専門的科目を履修していくことによって、俯瞰的な視野で論理的に考える力と一つの分野にとどまらない広がりのある専門性を身につけることができます。

## Ⅱ 社会の要請に応える研究力と現場力の養成

複雑化した課題を多く抱える今日の社会においては、深い専門知識と研究能力に裏打ちされた高度で実践的な課題発見・解決力を持った人材を育成することが強く求められています。こうした情勢を踏まえ、本学は修士又は博士にふさわしい研究能力に加えて、特に、社会における現実の具体的課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラムが授与する学位を「専門学位」として位置づけました(図3)。これは、社会の具体的課題に積極的かつ的確に対応していくために、本学が独自に設ける学位システムです。授与する学位(修士・博士)の法令上の位置づけに違いはありません。「専門学位」を授与する学位プログラムは、現在経営学学位プログラム、サービス工学学位プログラム、山岳科学学位プログラム等の16学位プログラムです。

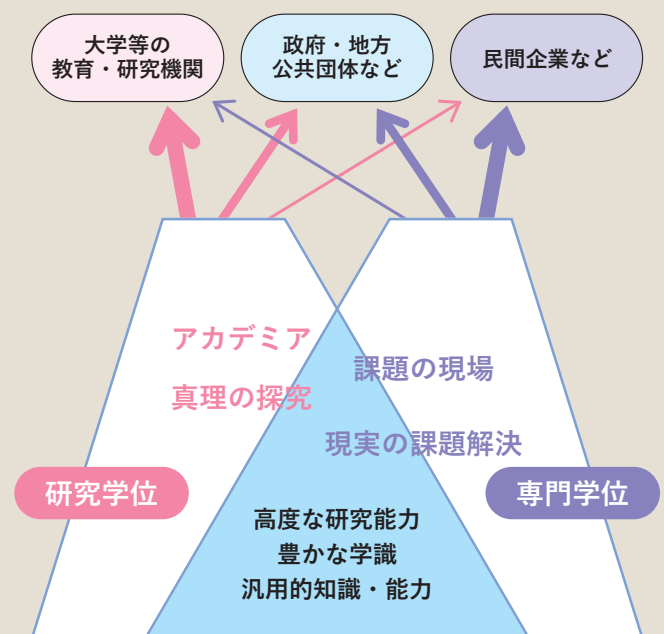


図3 専門学位と研究学位

# 教育目標の達成に向けた方針

## 方針2

# グローバルリーダーとなる人材の育成

### つくばからTSUKUBAへ

本学には開学当初から多くの留学生と外国人教員が集まり、国籍や言語の垣根を越えて学びあう学生と教員が「筑波」大学という組織や「つくば」市という地域にとらわれない知の拠点TSUKUBAを共創してきました。また、本学は体育・芸術・医学を擁する特徴ある総合大学として、スポーツ、芸術、心身の健康も含めて全人的に留学生と外国人教員を支援することにより、誰もが安心して協働できるコミュニティづくりを推し進めています。

つくば市と筑波研究学園都市には多くの外国人が滞在しています。その中核機関として、本学は筑波研究学園都市の国際化を推進するためのハブ機能も果たしています(表2)。

### 国際性の日常化

本学が21世紀において果たすべき役割のひとつが、グローバルリーダーとなる人材の育成です。これを実現するために、本学は12の国・地域に14か所の海外拠点置き、また、300件を超える交流協定を結び(図4)、優秀な留学生の受入れ、在学生の海外派遣、教員の学術交流にめざましい成果を上げています。

本学は、国際化拠点整備事業(グローバル30:平成21~25年度)やグローバル人材育成推進事業(GGJ:平成24~28年度)等の取組を通して、キャンパスにおける「国際性の日常化」を推進しています。そして、スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU:平成26~令和5年度)や大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業(令和6~11年度)等を通して、国境や機関の壁を越え、世界中の資源を積極的に活用した教育研究の実施をめざし Campus-in-Campusなどを推進しています。

また、キャンパスにおける「国際性の日常化」と、「世界を学びの場」にする学生の海外派遣を推進するためのワンストップサービスを提供する学内組織として、スチューデントサポートセンター(国際交流支援室)を設置しています。

### グローバルリーダーの育成

国際的なリーダーにふさわしい人材を育成するため、本学は、学びの場をキャンパスという空間に限定せず「世界を学びの場」にすることをモットーに、本学独自の支援としての奨学金や、授業、課外活動、そのほか全学的な様々な取り組みを用意しています(表3)。

つくば市には、145ヶ国から来た13,623人(令和6年10月)の外国人が在住  
大学には約3,800室の宿舎があり、約2,500名の留学生のうち約900名が暮らす。

表2 つくば市と筑波研究学園都市の外国人滞在状況

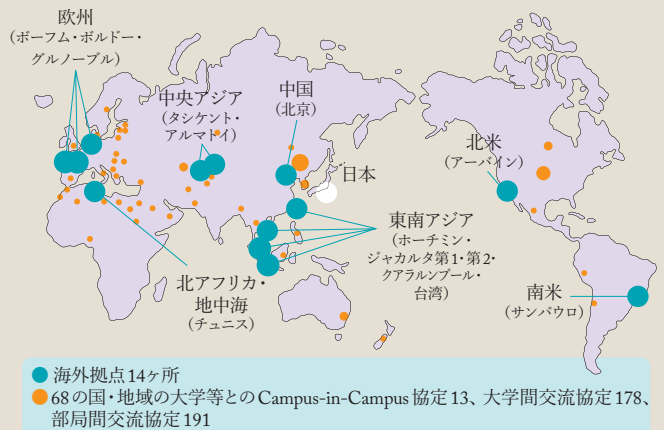


図4 海外拠点と国際交流協定国・地域 (R7年10月現在)

#### 経済的支援(渡航費支援・滞在費支援・参加費支援等)

##### つくばスカラシップ:留学生支援

海外留学支援事業(はばたけ!筑大生):国際交流協定校交換留学支援、キャンパスインキャンパス(CiC)等支援、海外武者修行支援、海外学会等参加支援、語学研修・海外研修参加支援

#### 授業科目・教育プログラム等

大学院共通科目:世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる JAPICアドバンスト・ディスカッションコース、国際研究プロジェクト、国際研究インターンシップなど

ヒューマンバイオロジー学位プログラム  
エンパワーメント情報学プログラム

ヒューマニクス学位プログラム  
(卓越大学院プログラム採択)

日独韓共同修士プログラム (TEACH)

日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)  
AIMS (Asian International Mobility for Students) プログラム  
筑波トランスパシフィックプログラム

経済・公共政策プログラム (PEPP)  
(世界銀行等の協力のもと、開発途上国の若手リーダーを対象とした英語による修士プログラム)

筑波大学グローバルリーダーシップ教育プログラム  
(Tsukuba Global\* (つくば・グローバル・プラス)/TG\*)  
地球規模課題(グローバル)の知識、新興国(ローカル)の視点、高い英語力と現地語力を身につける、全学に開かれたリーダーシップ教育プログラム

日本・ユーラシア研究プログラム (SPJES)  
(日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクトの支援を受け設けられた、中央アジア地域のSDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とした英語による修士プログラム)

Japan-Expert(学士)プログラム  
地球規模課題学位プログラム(学士)  
総合理工学学位プログラム(学士)  
(スーパーグローバル大学創成支援事業による新しい教育プログラム)

#### 場の提供

日本人学生と留学生の交流の場:  
Student Commons, Global Chat Program(G-Chat/Tsuku-chat/Language Exchange(GOTCHAT)), GASSHUKU(合宿)とDOJO(道場)など

市民と留学生の交流の場  
City Chat Café など

表3 グローバルリーダー育成のための取り組みなど

## 全学的な教学マネジメントの実現

### ■ 全学的な教学マネジメントによる PDCAサイクルの推進

学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていくため、教学マネジメント室を設置し、全学的な教学マネジメントを実現します。

教学マネジメント室では、学位プログラムのモニタリング（毎年の自己点検）とプログラムレビュー（数年おきに実施する総合的な点検・評価）の取組を中核としつつ、学位プログラムの新設又は改組等に伴う質保証の審査、体系的なファカルティ・ディベロップメントの推進及び高等教育に関する調査研究などを行い、内部質保証の確立と高度化を図ります。

図5 モニタリングとプログラムレビューによる内部質保証の確立（イメージ図）

